

九州経済の見通し（改訂）

2006年度の成長率2.4%

動向分析チーム

1. 2005年度の九州経済

28日発表）プラス1.5%から0.3ポイント下方修正となった。

● 2005年度はプラス1.2%に下方修正

その主因は民間企業設備投資の一服にある。

2005年度の九州8県の実質経済成長率（推計）は1.2%と、前回の改訂値（2005年12月

前2カ年度（2003年度、04年度）においては、電気機械、自動車、精密機械関連で大規模な

2005・2006年度九州経済見通し（実質、前年度比増減率）

（単位：%）

		2002年度 （実績）	2003年度 （実績）	2004年度 （推計）	2005年度 （推計）		2006年度 （予測）	
					（前回）	（改訂）	（前回）	（改訂）
九州8県	地域内総生産	△ 0.3	2.6	3.0	1.5	1.2	1.7	2.4
	民間最終消費支出	2.2	0.2	1.8	2.5	2.3	1.8	1.2
	民間住宅投資	△ 6.3	△ 2.1	5.7	1.2	0.4	△ 1.5	1.2
	民間企業設備投資	△ 4.3	8.6	9.9	3.0	2.6	1.7	8.6
	公的固定資本形成	△ 4.9	△ 10.6	△ 9.1	△ 3.2	△ 4.5	△ 3.1	△ 2.7
	純移輸出等	0.1	11.1	5.2	△ 0.3	△ 0.4	3.7	2.0
	参考）地域内総生産（連鎖方式）	△ 0.3	2.5	2.8	1.4	1.1	1.6	2.1
	鉱工業生産指数*	2.6	5.7	3.7	0.9	△ 1.3	4.8	3.7
全国	国内総生産	1.1	2.3	2.7	2.6	3.2	1.7	2.4
	民間最終消費支出	1.3	0.8	1.7	1.9	2.3	1.2	1.9
	民間住宅投資	△ 2.2	0.0	1.7	△ 0.7	△ 0.2	0.9	1.7
	民間企業設備投資	△ 2.6	7.0	5.4	7.6	7.5	4.3	8.2
	公的固定資本形成	△ 5.3	△ 9.5	△ 12.4	△ 4.3	△ 1.4	△ 5.5	△ 6.2
	純輸出等	6.4	7.0	3.0	2.6	4.1	5.2	5.8
	鉱工業生産指数	2.8	3.5	4.0	1.3	1.6	2.9	3.8

注）1. *印は九州7県の数値 2. 網掛け箇所は実績値、その他は推計・予測値

3. 2005、2006年度の国内総生産は主要シンクタンク12機関の予測値の平均

工場増設が相次ぎ、九州における民間企業設備投資を牽引したが、05年度の民間企業設備投資は高水準を持続しながらも、過去2年間における大型投資の反動で、設備投資の伸びが鈍化した。このため民間企業設備投資は前回から0.4ポイント下方修正とした。

民間住宅投資と公的固定資本形成も2005年度の実質経済成長率を下方修正する要因となった。民間住宅投資は前回推計時点においては、2006年1～3月期も高い伸びが続くとみていたが、同期の住宅着工戸数が前年を下回ったため、0.8ポイント下方修正とした。また、公的固定資本形成も2005年度下半期において減少率が縮小するものとみていたが、公共工事請負金額の減少率に縮小傾向が認められな

かったことから、1.3ポイント下方修正した。

また、鉱工業生産指数は前回の推計では電子部品・デバイスや自動車など主力産業を中心に設備投資の効果が表れると考え、0.9%上昇するものとみていたが、2005年度実績値は104.0と前年度比1.3%低下となった。これに併せて純移輸出等も0.1ポイント下方修正となった。

2. 2006年度の九州経済見通し

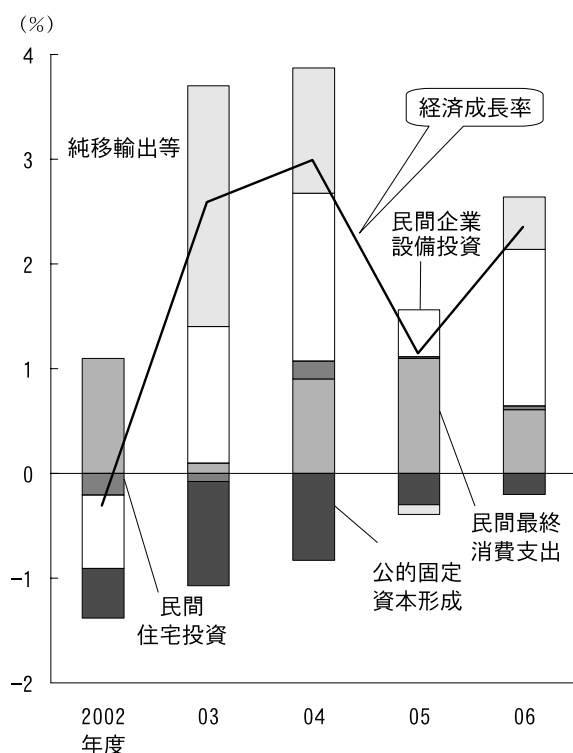
●2006年度はプラス2.4%に上方修正

2006年度の九州8県の実質経済成長率は、前回予測のプラス1.7%から0.7ポイント上方修正し、プラス2.4%とした（連鎖方式ではプラス2.1%）。ちなみに、主要シンクタンクによる全国GDP成長率は、昨年末時点での平均予測値（プラス1.7%）から0.7ポイント上方修正され、プラス2.4%（連鎖方式）となっている。

民間最終消費支出は前回予測時においては、雇用情勢の着実な改善を背景に堅調に推移するとみられたが、今年1月からの株価下落に伴う逆資産効果や天候不順等により現在まで消費に関する各指標は低調であり、6月からは定率減税の縮減が開始されたこともあり、前回の1.8%増から1.2%増に下方修正した。

民間企業設備投資は、ここ数年、高水準で推移してきたことから、その反動で小幅な伸びにとどまるとしていた。しかし、日本政策投資銀行の設備投資動向調査により、2006年

九州の経済成長率に対する各需要項目の寄与度



度設備投資計画が前年度比2ケタ増となったことから、前回予測1.7%増を大幅に上方修正し8.6%増とした。

また、住宅投資についても、これまで高い伸びが続いた反動等により、1.5%減と見込んでいたが、4～6月期の住宅着工戸数が、前年比14.6%増と高い伸びとなったため前回予測から2.7ポイント上方修正し、1.2%増とした。

公的固定資本形成については前回予測から0.4ポイント上方修正し、2.7%減と見込んだ。公共工事請負額等をみる限り、4～7月の累計で依然として7%程度のマイナスである。しかし、九州における国の4省庁、県、市町村、西日本高速道路、都市再生機構、水資源機構の当初予算ベースでは前年比1.2%減となっていることから、出来高ベースである公的固定資本形成もここ数年のような大幅減とはならないであろう。

一方、純移輸出等は通関ベースで輸出額は2ケタの伸びが続いているが、原油高騰や米国、欧州の景気減速が懸念され、輸出産業に一定のブレーキがかかる可能性が高い。加えて民間企業設備投資や民間住宅投資など内需の拡大に伴い移輸入額は増大するものと思われることから、純移輸出等の増減率は2.0%増と、結果的に前回予測より1.7ポイントの下方修正となった。

●再び投資主導の成長へ

このように今回の経済見通しの改訂は、民

間企業設備投資と民間住宅投資を上方修正したことがポイントとなる。民間企業設備投資については設備の過剰ストックが解消され、九州の2006年度における設備投資計画は過去最高に匹敵する水準にまで達した。また、民間住宅投資が3年連続してプラス成長となる背景も、バブル崩壊から15年を経てようやく地価に反転の兆しがみえ、都心およびその周辺において不動産の取得、開発が本格化したことや団塊ジュニアが住宅の一次取得層となってきたことと無関係ではないだろう。

このような中・長期的な要因に加え、設備投資については電子部品・デバイス、自動車関連中心の設備投資から徐々に素材系へすそ野が広がっていることや、民間住宅投資については、金利先高感による駆け込み的な住宅購入が重なり、3～4年に渡る投資拡大期を形成してきたと言えよう。

●出足躓き個人消費は下方修正

2006年度の民間最終消費支出は1.2%増と、前回予測から0.6ポイント下方修正した。

実際、足元の消費関連指標は低調に推移している。4～6月期の大型小売店販売額をみると全国が0.3%減にとどまっているのに対し、九州7県は2.2%減となっているほか、乗用車新車登録台数、全世帯消費支出の減少も全国以上に目立っている。

このような年度初めの消費不振は、株価下落による逆資産効果や、九州では休祝日に天候不順が続いたことが理由として挙げられて

いる。ただ、株価が落ち着き、天候もよかった8月においても九州地域景気ウォッチャー調査の家計動向関連は振るわない結果となった。

また、2006年度春の賃上率は九州8県平均で1.38%と予想に反して小幅な伸びにとどまった。全国との賃上率の格差も徐々に拡大している。所得環境は決して悪化はしていないものの、回復のピッチは緩やかになるものと思われる。

●外需が生産のブレーキに

2006年度の鉱工業生産指数は、前回予測の4.8ポイント上昇から、3.7ポイント上昇へ下方修正した。今年度の生産については、昨年度の調整局面から回復・上昇局面へ、との判断は変わらないが生産を支えている外需、なかでも米国の景気に減速感が強まるものと予想されるためである。

個別にみると、半導体生産は目下絶好調であるが、サッカーW杯によるデジタル家電商戦が世界的に期待を下回ったと言われている

ほか、米国の景気減速懸念が台頭しており、わが国の電子部品・デバイスの在庫率指数は過去最高水準にまで達している。外需の動向によっては半導体生産の先行きを楽観視できない状況もある。米国の景気減速は、もう1つの主要産業・自動車生産にも影響すると思われる。10月にダイハツ九州の新車種追加・増産が予定されていることから、九州の自動車生産台数は前年比で高い伸びが予想されるが、九州の自動車工場の中には北米への輸出比率が高い工場もあり、当初予測していた伸びを下回ると見込んだ。

他方、鉄鋼については汎用鋼板の在庫調整が終了を迎え、依然、高操業を続けると予想され、前年を上回って推移するものと思われる。化学は、定期修理による影響で4～6月は大幅に前年を下回ったが、7月以降、九州の主要工場は増産を見込んでいることから、結果的に前年とほぼ変わらない生産水準となるであろう。

GDP 算出方式の変更について

内閣府では2004年12月より実質GDP算出方式を固定基準年方式から連鎖方式に変更した。しかし、地域GDP算出のもとになる「県民経済計算」は、現時点では固定基準年方式の統計しか存在しない。このため、本予測では従来通り、固定基準年方式に基づく推計・予測を行い、参考として連鎖方式による推計値を掲載している。